

水トラストニュース

2008.06 No.19



もくじ

報告：4・19 御嵩町行政報告会	・・・・・・・・・・1
久しぶりの森の作業	・・・・・・・・・・4
王滝村訪問記	・・・・・・・・・・5
水環境文化賞を受賞しました	・・・・・・・・・・7
みたけの森まつり2008	・・・・・・・・・・8
2008年度定期総会&バスツアーのご案内	・・・・・・・・・・9

報告:4・19 御嵩町行政報告会

大沼 淳一

中公民館で開かれた4・19御嵩町行政報告会に行ってきました。行ったのは、大沼&大沼です。会場で、八百津の宮澤さんと一緒になりました。参加者は200人を少し越えたくらいでしょうか。柳川町長時代の襲撃事件弾劾集会の400~500名と比べると、少し入りが落ちています。予想よりはたくさん来ているという印象でした。役場も、シャトルバスを出すなどして人集めをやったようです。参加者の年齢構成は、柳川さん時代と同様に、高齢者が多いようでした。

渡辺新町長が滑らかに、2時間の報告会のうち1時間半ほどをほとんど一人でしゃべりきりました。町長になった自信と、1年間の経験による成長が感じられました。その要旨は次のとおりです

1) 産業廃棄物処分場問題

岐阜県知事、寿和工業社長との3者会談を4回重ねて(1回目は柳川さん)、3月26日の第4回の到達点は下記のとおりである。

岐阜県が調整試案(H9・5月8日付け)を撤回

御嵩町の岐阜県宛凍結要望書を撤回

平井前々町長時代の寿和工業との協定書の白紙撤回を申し入れ、寿和工業が了承

寿和工業が許可に関する県宛の一切の申請を取り下げる

町が目指す環境に配慮した先駆的なまちづくりの一環として、三者は計画地の利用に関して積極的に検討していく。

さらに町長から「今後は町主導でみんなが納得できる計画地利用を、町民の知恵と力を借りながら進めていきたい」とのコメントがあった。また、12月26日の第3回会談で出されたコメントのうち、

県と町が、10余年間にわたって申請を放置したことを謝ったが、柳川さんから「町は悪くなかったのだから謝るべきではなかった」としかられたと語った。

処分場計画の取り扱いについて「住民投票の結果を尊重する方向で検討を行っていく」となった。町は最後まで「白紙撤回」を主張したが通らず、妥協したことも報告された。

その上で、「寿和工業には処分場計画しかない。代案を出すのは、県と町の責任である。」ことを強調した。

木曽川水トラストMLに御嵩の田中保さんが送ってくださった毎日新聞記事の「5月にも5回目の3者会談」「1日から県職員を現地調査に派遣」とは、こうした状況を経た結果だということであろう。なお、事務レベル会議は41回を重ねたそうである。



2) 環境モデル都市を目指して

本年1月18日、福田首相の施政方針演説で明らかにされた「環境モデル都市」に立候補をした。全国で10都市が指定されることになっている。内閣府が主管している。御嵩町が全国初めての立候補だった。名古屋市も立候補すると伝えられている。この為に、県知事に有能な県職員を派遣するように要請した。

その県職員、堀智孝(42歳)特命街づくり参事からモデル都市立候補構想についての説明があった。まだ着任して間もないということもあって、準備と勉強が不足しているという印象だった。温室効果ガスの削減がモデル都市の軸になるということであったが、その説明も不十分。ただ、削減の目玉として、町内の里山を最大限に生かすことが強調されていたので、我々水トラストの町有林間伐事業は否応なく中心事業として祭り上げられる可能性がある。

(この原稿を書いている最中に電話あり、まさにこの堀参事からの電話で、本日名古屋市環境局を訪問するが、そのあと会えないかということだった。結果的に、午後3時から1時間ほど市役所で、同行の鍵谷総合政策課長と3人で意見交換を行った。名古屋市へは、環境モデル都市立候補にあたって協力関係を結ばないかということと、名古屋市の温暖化ガス削減のために御嵩町の間伐によるCO₂削減分 - カーボンオフセット - を買わないかという申し入れだったそうである。名古屋市側の反応はあまり芳しいものではなかったそうであるが、第1回目としてはそんなものかもしれない。環境局は上流域問題に関心がないからである。むしろ上下水道局は以前から上流域との交流を重視する姿勢を持っているから行ってみたらどうかとアドバイスすると、二人はさっそく飛び込みで上下水道局へと向かった。さて、首尾はどうだったのだろうか・・・ついでに町有林間伐に関連していくつかの提案を試みた。現在切り捨て間伐を行っているが、これを有効利用しないとCO₂削減にはならないこと。役場の土木課などの事業での有効活用、みたけの森の作業員(下水道普及に伴う失業対策)による搬出作業ができないか 複層林化にあたっては、作業効率のよい列状間伐の採用や、木祖村が下流域との間で行っているどんぐりの苗を下流の家庭で育ててもらって植えに来てもらうアイデアなど 町の広報などで我々のボランティア間伐事業を積極的に宣伝して、町民の参加を呼びかけること 町内民有林所有者にボランティア間伐の意義を知ってもらうことで民有林の間伐にもはずみをつけること これに関連して、水トラストが実施予定の間伐技術講習会への参加呼びかけを役場に行ってほしいこと・・・水トラストが

現在助成金をもらっている国土緑化推進機構の幹部が来訪したそうである。助成金の使途についての制限が時代遅れで、仕事がしにくいことを役場から言ってもらうように要望した。）

話を行政報告会に戻す。会場から桃井病院の院長さんの発言があった：名古屋市民の水を守ってやったのが御嵩町、その名古屋市と提携しながら環境モデル都市を目指すのはけっこうなことである。その際、有機野菜などを御嵩ブランドとして栽培、発信し、名古屋市民に買ってもらうというようなリンクの仕方を考えていくべきではないか。

小栗久美子さんからの発言：食糧自給こそ環境問題解決のための重要な柱である。フードマイレージ、流域内自給、小和沢計画地の利用方法を相互に関連させて、環境モデル都市の軸として御嵩町の農業振興を考えてほしい。

3) その他報告

安心して子育てできる街づくり～中学生まで医療費無料～可児・加茂郡は全市町村が実施
一定水準を超えている老人福祉政策の維持継続 水道料金値上げを避けて、一般会計から補填 道路特定財源 8000万円減収 企業誘致奨励金がH20年度は2億5千万円でピーク。以降は減っていくので町財政にも余裕ができる見通し 亜炭鉱問題：基本的には国の責任、現状では落盤陥没のケースしか金が出ない。防止対策でお金が出るように求めている。 今後は、小集会でもいいから呼んでいただければ、町政報告に出かけたい。 名鉄広見線廃線問題～毎年2億円ほどの赤字が出ているから廃線にしたいというのが名鉄の言い分。しかし、赤字線から乗った客が集まって本線の黒字を支えているのではないかと渡辺町長の発言は、けっこう勉強しているなぁという印象であった。八百津線がすでに廃線となってしまった八百津町ではとても困っているそうである。八百津と御嵩町を結ぶトンネルを早期に開通させて、八百津の人々も御嵩駅からパークアンドライドで名古屋方面に向かうことができるようにしたいということで、八百津町とも協力して存続の運動を展開するそうである。

小和沢計画地の利用方法については、以上のような流れからすると、早急に、市民側からの提案を準備する必要がありそうです。御嵩町民、下流域市民による「提案検討会」をスケジュールアップしましょう。



久しぶりの森の作業

三辺冬雄

4月12日の「春を食べよう」に、おいしい食べ物に誘われて、何年ぶりかで久々に水源の森を訪れました。

食べて飲んでそれだけと思って、お酒持参で来たものの、午前中に森の作業をすることになっていたみたいで、そちらの準備はしてきませんでした。

この日は、イベントだったので、いつもの作業日より人出が多かったようでした。新聞記者も取材に来ており、このNPOも注目されるようになってきたと、素直に喜ぶたいものです。

「水源の森」に行ったら、間伐の成果で以前と景色が変わっていることに気づきました。

また、各種団体から助成金をもらったおかげで、装備や機材も良くなり、以前とは比べものにならないくらいでした。のこぎりの切れ味も、新しいせいか、なかなかのものでした。

慣れない格好をしながらも、枝打ち作業をこなしていましたが、それらしくふるまっていたら、新聞記者に写真を撮られてしまいました。

また、木を伐採する人、伐採された木の皮をはぐ作業をしている人もいて、にぎやかでした。

午前の作業は、2時間くらいでしたが、あっという間に終わりました。メインの「春を食べよう」については省略します。この日のためにわざわざ来てくれた人も多くみられました。期待どおり、おいしいものを食べ過ぎてしまいましたが、食べきれず、まだたくさん残っていました。

その流れで、夕食もなかなかのものでした。そのせいか、昼以上に食べて飲む人もいました。

日帰りのつもりだったのですが、結局、食べて飲んで、泊り込んで、翌日は、町有林で午前午後とも枝打ち作業をしてしまいました。

おがくずが眼に入ったりしましたが、虫も蛇もまだ少ない時期だったので、作業がはかどったかと思いません。この時期でも作業をすると汗をかきましたが、半分冷や汗だったかもしれません。

このあたりは街中よりも遅く、ちょうど桜の満開時期で、お花見をかねたものになりました。

梯子の昇降のせいか、足の筋肉が痛くなり、その後、何日間か痛みが続きました。



王滝村訪問記

大沼淳一

2008年4月16日、愛知用水の水源ダムである牧尾ダムがある王滝村を訪問し、役場で瀬戸村長と面談することが出来た。一緒に行ったのは、名古屋市議の斉藤亮人さん、東郷町議の山口洋子さん、日進市議の山根倫代さん、可児市の「メダカの楽校」の河崎典夫さんである。

木曽川の源流は木祖村と長野県朝日村との境界にある鉢盛山とされているが、地図を広げると源流の山と呼ぶべきなのは御嶽山であることがわかる。御嶽山に降った雨は、西半分が飛騨川となり、東半分が王滝川となって木曽川と合流している。この御嶽山には個人的な思い出もたくさん詰まっている。子育ての時代は子供の成長のバロメーターとして毎年登った。冬も名古屋市民休暇村に泊まって御岳スキー場でファミリースキーを楽しんできた。現在は、海外の高山に登る時に高所順応をはかるために遠征前に何度か剣が峰の往復をしている。春山スキーでの山頂からの滑降は実に素晴らしい。おそらく、これまで100回近く登っているだろう。

御嶽山は古来薬草の採取地として著名である。百草丸が今でも売られているのはそのためである。幕末から明治にかけて活躍した尾張の本草学者・伊藤圭介は80歳過ぎまで何度も御嶽山に登っている。御嶽山の森林が幕府や尾張藩の御料林として直轄支配され、明治以降は国有林として中央政府に直轄管理されてきた。「その国有林が村の面積の大部分を占めている。わずかながら耕作可能だった平らな部分が愛知用水の水源ダムである牧尾ダム建設で水没してしまった。これらの土地や森が村のものだったら、我々は悠々と自立して食べていける。かつては700人の村民が国有林関連の仕事で雇用されていたが、今では壊滅状態である。グローバル化による木材価格の低迷もあるが、独立採算制導入後の営林署による乱伐がもたらした森林の荒廃はすさまじい……」瀬戸晋村長はそう語りはじめた。

実質公債費比率42.5%は夕張市を超えて日本一。13億8千万円の年間予算のうち、借金返済に半分近くを取られてしまっているのである。その中には村営スキー場がかかえる10億余円の借金の一般会計からの返済が含まれている。そのスキー場は、牧尾ダム建設の際の補償金で国有林に道路を造って開業した村営スキー場。好調時には村の年間予算が70億円もあって近隣からうらやましがられたそうである。それがスキー人口の減少と東海環状自動車道路開通に伴う関西方面スキーヤーの奥美濃シフトで集客力が激減し、無理な設備投資が追い討ちをかけて赤字が累積するようになったのだそうである。設備投資の失敗は舵取りとしての村の責任であるが、そういう危なっかしい舵取りをしなければならぬような状況を造ったのは下流域のためのダム開発だったのである。そのダムから期待される固定資産税は農業用水のための水利ダムであることから免税となっていて村の収入にはならないというのも意外であった。(ちなみに、村最大の固定資産税源は関電の三浦ダムと名古屋市の御岳市民休暇村だという) こうした状況に追い討ちをかけるように小泉の三位一体改革による地方交付税減額が続いている。

村役場職員の25%が自主退職、職員給与の減額(2008年度は20%カット)、議員報酬減額(2008年度議員報酬は月額79,700円)、役場はスキー場全盛期に豪華庁舎が建てられたかと思いきや、意外にも木造モルタル2階建ての薄暗い建物で外壁にはたくさんのクラックが入っていた。事務室の壁には現状人口のカウンターが貼られていて、総人口が1000人を割り込んでしまったことを

示していた。

下流域との交流事業は少なくない。東郷町との交流事業で「銀河の森」があり、つい1ヶ月前に町議会議員が枝打ち作業を行った。1984年の長野県西部地震で大きな被害を受けたが、その救援事業として始められた「緑のバトン事業」(中日新聞社)では、どんぐりの苗木を名古屋で育ててもらい、それを地震で表土が流出したエリアに植林する活動が行われている。しかし、啓発的なイベントから実質的に上流域を支援する事業あるいは仕組みへと進化することはかなり難しい。その中であって、中部水道企業団の水源基金は大変役立っていると村長は明るい表情で語った。思えばこの基金は、今回同行された東郷町の山口洋子町議が議会で提案したことによって実現したものであった。山口さんは、木曽川水トラストなどが中心となって行った第2回木曽川流域圏シンポジウムに参加されて水源基金のことを学んだということであった。我々市民が提案して現実の仕組みとなって機能している稀有なる事例である。水道水の長良川水源から木曽川水源への切り替えを公約にして当選した半田市の榊原市長が今年から60万円を王滝村に送る取り組みを始めたことについても、とても助かっていると村長は語った。地球温暖化対策で間伐に税金が投入され始めているが、その間伐作業が出来る人材が不足しているそうである。

昨年10月、「水と緑のふるさと基金」が設立された。4つの用途からひとつを指定して村への寄付を募るものである。4つの用途とは、木曽御嶽山環境整備、森林整備と水源涵養、自然エネルギー利用促進、教育の推進と文化の保全育成事業である。寄付申込は、メール(suisin@vill.otaki.nagano.jp)、FAX(0264-48-2172)、郵送(〒397-0201 王滝村3623 王滝村役場、再建推進室宛)、寄付申し込み書は電話(0264-48-2001)またはホームページ(<http://www.vill.otaki.nagano.jp>)から入手できる。

村で最大の雇用機会となっているのが名古屋市民休暇村である。パートも含めて約100人が働いている。しかし、近年の利用者減少の伴う赤字の増大があり、名古屋市の行政評価は低ランク、存続が危ぶまれている。単なる市民福祉施設としての位置づけから上流域支援事業としての側面を強調し、なんとか存続できるように名古屋市民としても声を上げていかなければならない。

面談を終えて強く感じたことは、この村が江戸時代以来一貫して下流域とりわけ名古屋との深いつながりを持ってきていること、しかも下流域が一方向的にこの村を食い物にしてきたことであった。なんとか、上流域を継続的に支援する仕組みを下流域で作らなければならない。この気付きを多くの市民と共有するためには、上流域支援が下流域市民の安全でおいしい木曽川の水の持続的な享受につながっていることを強調していく必要があるであろう。

(この旅の目的は、本年9月13日開催に向けて準備中の「水源の里を守れ 木曽川流域の集い」のための取材と出演交渉であった。京都府綾部市長四方八州男氏が提唱した限界集落を救うための「水源の里条例」制定、「全国水源の里連絡協議会」設置に端を発して、木曽川水系でも自治体間の上流協働を進めようというねらいで準備作業に入っているのである。これまでに、「全国水源の里連絡協議会」に参加している岐阜県白川町、長野県木祖村、木曽町、上松町、そして王滝村の訪問を行っている。)

水環境文化賞を受賞しました！



3月20日名古屋大学に於いて日本水環境学会による水環境文化賞の授賞式が行われました。この度、みだけ・500万人の木曽川水トラスト（以下水トラスト）が水環境文化賞を受賞することとなり、由井代表はじめ四名のスタッフが授賞式に出席しました。この水環境文化賞は水環境の保全・創造に関する社会・文化活動が顕著である団体または個人に贈呈される賞で今回は八戸市で蜚に関する活動に取り組む団体と水トラストの二団体が全国の中から選ばれました。受賞理由として森林保全活動を通じた流域全体の河川保全に係わる社会啓発活動は水環境の保全と創造に寄与する優れた活動であることが評価されました。

授賞式では由井代表が壇上に上がり表彰状とメダルを受け取ると会場の出席者から大きな拍手をいただきました。続いて受賞にあたっての記念スピーチに立った由井代表は、巨大産業廃棄物処分場問題が契機となり木曽川下流域500万人のライフラインである木曽川の水を考えることとなり、その後水トラストを結成し木曽川流域全体を考えながら上下流の交流やシンポジウムの開催、水トラストニュースの発行そして多くの方々の力で水源の森づくりに取り組んできたことを伝えました。また会場では水トラスト結成の経緯と活動内容の写真パネルが展示され出席者の目を留めていました。



授賞式の後には懇親会も行われ、出席者にパンフをお渡ししながら水トラストの活動紹介をするとともに、懇親会のスピーチでは「水源地の山間地は大変な状況になっています。是非森を見に来てください。」とうったえました。

最後になりましたが水トラストがこのようすばらしい賞を受賞できたのは各関係者の皆様と活動をご支援くださる皆様のおかげと深く感謝を申し上げます。（穂高信介）

みたけの森まつり 2008

小枝カナです。5月3日のみたけの森まつりに参加しました。

いい天気だった。小枝は、初めて参加した。高い道路から眼下によく目に入る場所にヒノキ君がいた。隣は加子母からきた木工の教室でみんな同じようなものを作っていた。こちらは不ぞろいのヒノキ君がお客を待っていて、好き好きに、なべしきや鉢植えの台と使い方に合わせて切られ、椅子には、この太さで、ともらっていかれた。



いろいろな顔の人がくる。親子でやって来て、小枝が「子供に木を切っていない？」と声をかけると、「やってみる」と励ますお父さんがいた。切れたときは小枝も、お父さんも、子供もうれしくなった。

サンプルで木のオブジェ、写真たて、を並べておくと、これが作りたいという人が来た。丸いヒノキを4つに切って、ボンドでつける、クヌギや桜の枝もそえると、それぞれ個性のある飾りに変わっていった。ボンドが乾燥するのを待つ間、どこからヒノキ君が来たか、この会は何をしているかを聞いて興味をもってくれた。毎月第2土曜日の活動に興味をもってくれたが、何をしたらいいか心配そうだった。「何もしなくていいから、空気を吸いにきてくれたらいい」と誘ったら笑顔になった。本当に来てくれるかもしれない。

老夫婦が孫を連れてきた。「木を切らない？」と勧めると、おばあちゃんも勧めていた。「のこぎりを持つのは初めてだね」と、励ましていた。途中おじいちゃんが手伝って、よく切れるように切れ目の方向を修正した。それからのこぎりと体がまっすぐになっているとよく切れることがわかり、最後までがんばった。やっぱり最後までやると感動する。そうか、こんな小さな体験が記憶をつくり、感動を与える、この活動の意味なんだとわかった。



中には「無料です」というと、もって行くとも言わず、どこから切られてきたか興味も示さず、ただ黙って持っていく人もいて少し悲しいこともあった。でも来年も参加したい。(市村[か])

2008 年度定期総会のご案内

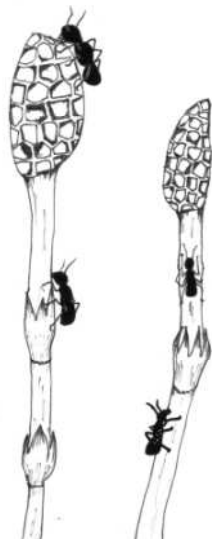
時：6月1日(日) 14:00~17:00

場所：名古屋働く人の家 (地下鉄・伝馬町下車、徒歩6~7分)

議題：2007年度事業報告および決算報告

2008年度事業計画および予算報告

その他の報告



今年もやりますバスツアー

素人のための木こり仕事入門

8月3日(日)、集合：名古屋駅太閤通口

(ビックカメラ前の歩道)

集合時間：午前8時45分

雨天決行、参加費：無料

作業場所：御嵩町大久後地内

申込は fax、メールで下記へ

[表紙絵：早川、裏表紙絵：市村か]

「生涯学習発展講座」のご案内：

7月5日、12日の2回にわたり上記講座が開催される予定で受講者を募集しています。当トラストの安藤直彦がパネラーの一人として御嵩の話をする予定です。この講座は「NPO 法人生涯学習ネットワーク中部」の主催で、21世紀型市民社会にむけた「市民力」アップと団塊世代の生きがい、成果の社会への還元を目的として、「地域の歴史」(5月24&31日) 「自然・環境」(7月5&12日) 「国際交流」(9月27日、10月4日)のシリーズで開かれる予定です。7月は「自然・環境を大切にしまちづくり」をテーマに基調講演：中島一(愛知県キャンプ協会監事)コーディネーター：滝川正子(東山森作りの会他)パネリスト：堀田守(名東自然クラブ他)真弓浩二(雑木林研究会他)戸苅辰弥(藤前干潟を守る会)安藤直彦(みたけ水トラスト)で開催予定です。お問い合わせは090-7038-0646(佐藤)まで

発行

特定非営利活動法人NPO みたけ・500万人の木曾川水トラスト

〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬2-28-14 名古屋働く人の家気付

TEL & FAX 052-682-4737

郵便振替00800-9-64810

URL <http://homepage3.nifty.com/mitake/>

e-mail mitake500npo@yahoo.co.jp